

# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

|          |   |
|----------|---|
| 会期       | 平成29年6月10日（土）～平成29年7月31日（月）   |
| 休館日      | 毎週水曜日（祝日の場合は翌日休館）   |
| 開館時間     | 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）   |
| 入館料      | [個人] 大人 600円<br>小・中学生 300円<br>[団体]（20名以上）<br>大人 540円<br>小・中学生 250円  |
| ギャラリートーク | 平成29年6月10日（土） 午前の部 午前10時～<br>午後の部 午後2時～<br>藤原秀之氏（早稲田大学戸山図書館担当課長）による作品解説   |
| 主な展示品    | ■結納 住所書・婚姻同意書・結納一切・家族書・親族明細書<br>■市島家・松平家親類書<br>■御婚姻届写<br>■市島家・松平家結婚披露宴招待状文案<br>■市島初之丞・隆子結婚写真<br>■四君子蒔絵膳椀<br>■黒漆木瓜紋膳椀（市島家）・黒漆葵紋膳椀（松平家）<br>※展示品については展示出陳リストを参照ください。 |

主 催/ 新発田市 協 力/ 早稲田大学図書館  
お問い合わせ/新発田市観光振興課 ☎0254-28-9960

## お姫様がやってきた！～豪農と華族の結婚式～

今から約100年前の大正4年(1915)3月20日、東京柳橋の柳光亭で盛大な結婚披露宴が開かれました。主役となった新郎は、市島宗家の継嗣・初之丞(徳厚)、新婦は子爵・松平康民の息女・隆子です。松平康民の父は美作国(岡山県)津山藩主・松平齊民、つまり隆子はお大名の孫娘ということになります。江戸時代から苗字帯刀を許された豪農とはいえ、「平民」であった市島家に「華族」の令嬢がお輿入れとなったわけです。

父である宗家8代当主・市島徳次郎(湖月)のとき、文字どおり千町歩地主として確固たる地位を築いた市島家がはじめて迎えた「お姫さま」です。今回は市島邸に伝わるさまざまな資料によって、彼らの華やかな生活を再現してみました。

松平家が大切な娘に持たせた美しい嫁入り道具の数々、そしてそれに負けぬくらい豪華な市島家秘蔵の品々。今回はそんな豪農の跡取り息子と大名のお姫さまの婚礼の様子と暮らしぶりを、市島邸が所蔵する資料を通じてご覧いただきたいと思います。

目にも鮮やかな食器や身の回りの品々、結婚にいたるまでの様子を伝えるさまざまな文書、いずれも本展示のためにあらためて調査をおこない、お披露目するものです。

どうぞごゆっくりご覧ください。

平成29年6月 市島邸

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！ ～豪農と華族の結婚式～」 出陳資料リスト

| <文書・冊子>                            |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| ①結納 住所書・婚姻同意書・結納一切・家族書・親族明細書       | 東京事務所 1914年(大正3)8月                    |
| ②結納口上書                             | 黒田一道(松平康民使) 1914年(大正3)8月1日            |
| ③市島家・松平家親類書                        | 1914年(大正3)8月                          |
| ④御婚姻届写                             | 東京事務所 1915年(大正4)4月                    |
| ⑤大札御式伝習願                           | 市嶋徳次郎内 小野寺文哉→小笠原清明<br>1914年(大正3)11月吉日 |
| ⑥御婚儀御大札 御道具送・御入輿御式・御土産             | 東京事務所 1915年(大正4)2-3月                  |
| ⑦協議事項覚書                            | 東京事務所 1915年(大正4)                      |
| ⑧儀式之役割心得書祝儀酒肴料賃舅入御土産御披露宴其他         | 東京事務所 [1915年(大正4)頃]                   |
| ⑨御式之品目                             | 1914年(大正3年)12月                        |
| ⑩琴柱印様御道具総目録                        | 東京事務所 1915年(大正4)3月                    |
| ⑪もくろく 松平家使者 植原儀直                   | 1915年(大正4)2月26日                       |
| ⑫もくろく 松平家使者 渡部俊彦                   | 1915年(大正4)2月25日                       |
| ⑬御荷物送手控                            | 市島家内 小野寺文哉<br>1915年(大正4)2月26日         |
| ⑭市島家・松平家結婚披露宴招待状文案                 | 松平康民・市嶋徳次郎→何某<br>1915年(大正4)3月5日       |
| ⑮御献立                               | 柳光亭清兵衛→市嶋様<br>1915年(大正4)2月            |
| ⑯金銀扇面「松平家市島家 御結婚御披露宴」2面            | 1915年(大正4)3月20日                       |
| ⑰御料理献立 御式当日・御披露当日                  | 東京事務所                                 |
| ⑱御祝儀受納仮控写                          | 1915年(大正4)3月吉日                        |
| ⑲御祝儀受納仮帳                           | 1915年(大正4)4月吉辰                        |
| ⑳御祝儀着控及答礼覚                         | 東京事務所 [1915年(大正4)]                    |
| ㉑御慶事後御次ノ者ノ御贈答控                     | 御慶事係筆頭(小野寺文哉)<br>[1915年(大正4)]         |
| ㉒大正四年五月五日若様御婚礼御広目席順                | 1915年(大正4)5月                          |
| ㉓若奥様御国入後第一回ノ御上京ニ際シ御実家様其他へ被進タル御土産ノ控 | [1915年(大正4)頃]                         |

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！ ～豪農と華族の結婚式～」 出陳資料リスト

| <b>&lt;博物資料&gt;</b>         |  |
|-----------------------------|--|
| ㉔市島初之丞・隆子結婚写真               | 小川一真(東京) [1915年(大正4)]  |
| ㉕四君子蒔絵膳椀                    |  |
| ㉖四君子蒔絵飯次・湯桶・杓子・脇引盆・脇取盆・丸盆   |  |
| ㉗黒漆木瓜紋膳椀(市島家)・黒漆葵紋膳椀(松平家)   |  |
| ㉘黒漆木瓜紋隅切膳(市島家)・黒漆葵紋隅切膳(松平家) |  |
| ㉙黒漆葵紋杓文字・朱塗葵紋丸盆             |  |
| ㊳惣黒長手葵御紋付御広蓋                |  |
| ㊴惣黒葵御紋散九寸御重箱                |  |
| ㊵風竹蘭図金象嵌花入                  | 中川一的作  |
| ㊶春慶塗葵御紋付御長持                 |  |
| ㊷木瓜紋付姿見                     |  |
| ㊸永楽焼赤絵食器類                   |  |
| ㊹蒔絵都鳥吸物盆                    |  |
| ㊺天龍足付八足紫檀中卓                 |  |
| ㊻琴柱印付一閑張行李                  |  |
| <b>&lt;参考パネル&gt;</b>        |  |
| ㉜早わかり番地入 東京市全図 (部分)         | 便覧社 1926年(大正15)5月 (個人蔵)  |
| ㉝「春城日誌」に見る初之丞(徳厚)と隆子の結婚     | 「双魚堂日誌」1913(大正2)～1915(大正4)<br>(早稲田大学図書館蔵、<br>画像は同館「古典籍総合データベース」より) |
| ㉞市島家家憲にみる結婚                 | 「家廟の紙碑」より  |
| ㉟婚礼関係者一覧                    |  |

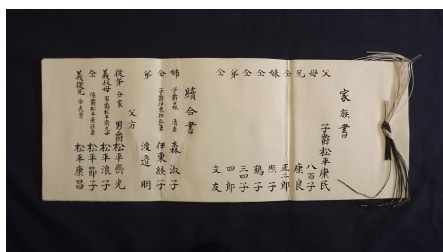
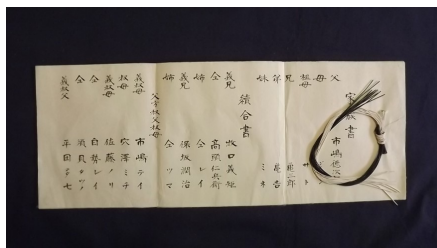
## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

#### ■豪農と華族の結婚式

豪農といえども身分としては平民です。江戸時代の士農工商から明治の世となり華族・士族・平民に代わったとはいえ、当初は「身分違い」の婚姻は認められませんでした。

明治4年(1871)8月、戸籍法が改正され、身分の差を越えて結婚することが可能となり、それまではありえなかった華族、すなわち大名や貴族の娘と、豪農、豪商の子弟との婚姻が実現することとなりました。

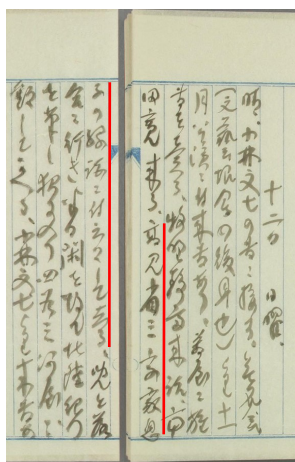


# 2017年度第1回 市島邸企画展示

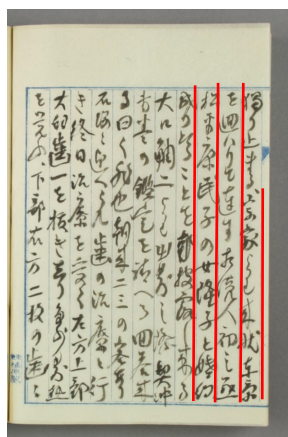
## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

### 「春城日誌」に見る初之丞(徳厚)と隆子の結婚式

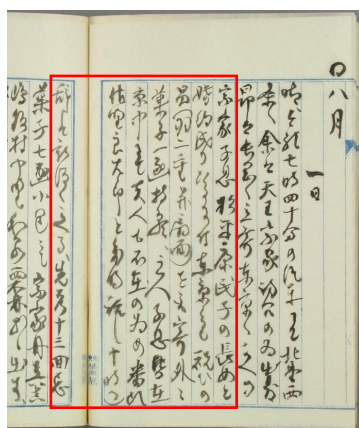
角市分家の市島謙吉(春城)は、このころ早稲田大学図書館長として、また大隈重信の選挙参謀として多忙な日々を送っていました。そんな春城のもとにも、宗家後継者たる初之丞結婚の話題がもたらされます。関係者の側から婚禮の様子を見てみましょう。



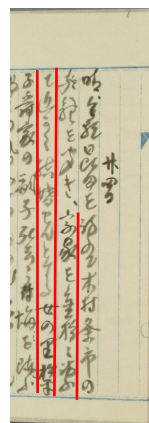
大正2年10月12日条  
日曜 晴、(中略)  
高見省三、宗家息子の縁談=付云々して去る、



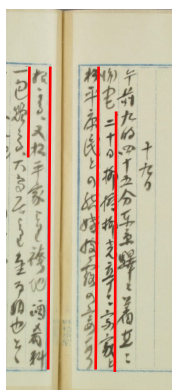
大正3年7月27日条  
~宗家より来状、東京を廻りて達す、相続人初之丞、松平康民子の女隆子と婚約成りたることを披露し来る、  
※この年7月下旬から8月にかけて市島は新潟に滞在している。3月に死去した三女・澄の遺骨を菩提寺浄念寺に納めることと、亡父の十三回忌が目的であった。



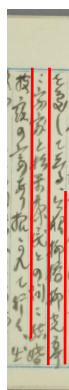
同年8月1日条  
~宗家子息、松平康民子の長女と婚約成りたるに付、東京より祝ひの品(羽二重并扇面)を取寄、外二菓子一函持参、主人、子息皆在京中にて、夫人も不在の為め番頭佐野良太郎と多時話し、十時過辞して新潟へかへる、



同年10月24日  
~宗家を金杉=訪ふて、近かく結婚せんとする女の里、松平子爵家の嗣子死去=付悔を陳ぶ、  
※松平家の嗣子である康良<隆子の兄>がこの年死去している。



大正4年3月19日  
~二十日、柳橋柳光亭=宗家と松平康民との結婚披露の宴あり、招かる。  
又、松平家より袴地、酒肴料一包贈らる、



同年3月20日条  
~今夜、柳橋柳光亭=宗家と松平康民との間=結婚披露の宴あり、招かれて行く、

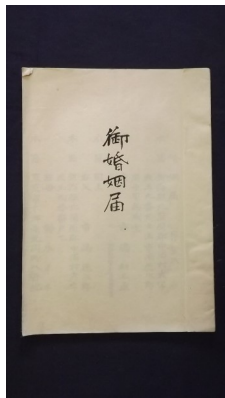
## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



24. 市島初之丞・隆子結婚写真 1枚  
小川 一真（東京） 1915年（大正4）

晴れの日を2人を写したもの。隆子が着ている鶴を描いた着物は「御道具総目録」に「黒縮緬葵御紋付竹鶴=霞高模様御振袖御式服」と記載されている。当時の日本を代表する有名写真家、小川一真（1860～1929）の写真館で撮影したものである。



4. 御婚姻届写  
東京事務所 1915年（大正4）4月

初之丞、隆子の婚姻届は興入後の1915年（大正4）5月、初代長岡市長をつとめた貴族院議員牧野忠篤とその夫人・茂子を証人として、北蒲原郡中浦村（現・新発田市）に提出された。これはその写しで、婚姻届の後には華族令嬢の婚姻ということで、宮内大臣波多野敬直による許可書（1914年7月17日付）の写も添えられている。「子爵」松平康民家と「新潟県平民」市島徳次郎家の婚姻ということが明記されておりそこには厳然たる身分制度があったことがわかる。



# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

### 市島家家憲にみる結婚

明治時代になり、市島家の家政が本家中心へと転換してゆくなかで制定された「市島家家憲」(明治35年制定)では、結婚についても詳細に規定されています。以下、「家憲」の中から関連部分を抜き出してみましよう。

#### 第一編 総則

第五条 家ヲ維持セントスル者ハ常ニ左ノ心得ナカルベカラズ

〈 中 略 〉

#### 第五 婚姻縁組ノ相手

- 一、婚姻縁組ノ相手ヲ選ブニハ血統ト賢愚トヲ第一ノ標準トシ門閥ト貴賤トハ其次ニスベキコト
- 二、妻妾ヲ選ブニモ血統ト賢愚トヲ標準トシ容色ハ次ニスベキコト
- 三、早婚ハ可成爲間敷コト

#### 第三編 親族

#### 第二章 婚姻縁組

第六十九条 婚姻又ハ養子婿養子縁組ヲ為サントスルトキハ其本人父母戸主ハ左ノ事項ヲ調査シテ遺漏ナキヲ期ス可シ、

- 一、婚姻縁組ニ関スル法規
- 二、婚姻縁組ノ相手方ノ品性学力知識並ニ血統
- 三、前第一章第六十八条ノ第一号乃至四号ニ定メタル事項ノ有無

参考:第六十八条 左ノ場合ニ於テハ親族姻族タルノ待遇ヲ止メ且ツ其出入ヲ禁ズベシ

一、戸主家族其直系血族又ハ姻族或ハ顧問総務理事ニ対シ直接間接ニ危害若シクハ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者

及其直系血族配偶者又ハ兄弟姉妹

- 四、戸主ガ必要ト認メ顧問会家務評議会ノ同意ヲ得タル者

第七十条 六親等内ノ血族間ノ婚姻縁組ハ之ヲ避クルコトヲ要ス

但単ニ養子縁組ヲ為スハ此ノ限ニ非ラス

第七十一条 婚姻縁組ヲ為サントスルトキハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一、品性高尚ナル者
- 二、学力知識ノ普通以上ナル者
- 三、血統上厭忌スベキ遺伝性ノ疾病ナキ者
- 四、前第一章第六十八条ノ第一号乃至四号ニ掲ゲラレタル者ニアラザルコト
- 五、禁治産者準禁治産者ニアラザルコト
- 六、浪費者ニアラザルコト

第七十二条 離婚又ハ離縁ヲ為サントスルトキハ法規ヲ取調べ遺漏ナキヲ期スベシ

第七十三条 離婚又ハ離縁ヲ為サントスルトキハ直系尊属ノ同意ヲ得且顧問会家務評議会ノ意見ヲ徴スベシ、



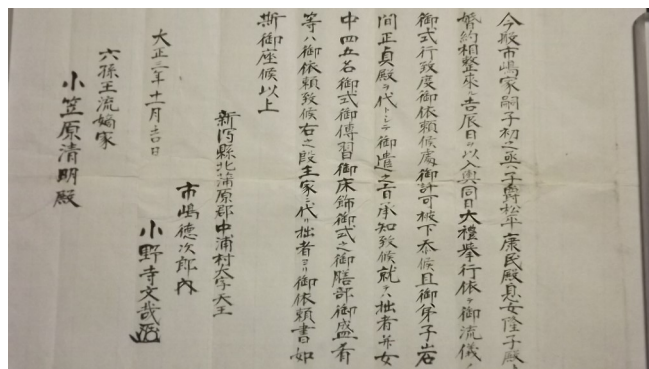
## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

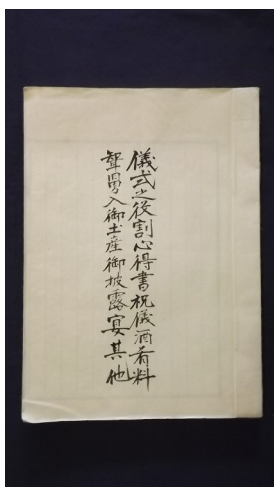
#### ■ 婚礼の日を迎えるまで

初之丞と隆子の婚礼は「小笠原流」の作法に則って行われることとなりました。本来は武家のための礼儀作法として成立した「小笠原流」では、婚礼の作法も武家故実(行動の根拠となるような決まりごと、先例など)の一つとして整えられてゆきました。

結納、吉日を選んでの婚礼の儀、嫁入り道具の搬入から婚礼当日の道順に至るまで、綿密な準備が小笠原家の指導のもと、市島家と松平家の間で進められました。



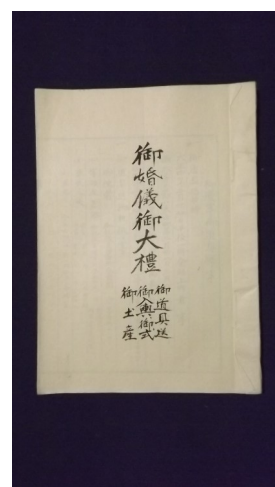
5. 大礼御式伝習願 小野寺文哉→小笠原清明  
1914年(大正3)11月吉日



8. 儀式之役割心得書祝儀酒肴料  
贅舅入御土産御披露宴其他 1冊  
東京事務所 1915年(大正4)頃



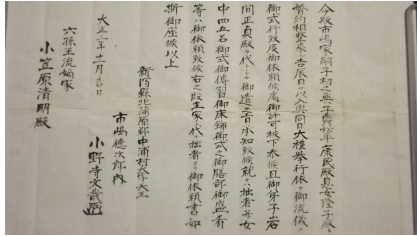
7. 協議事項覚書 1冊  
東京事務所  
1915年(大正4)



6. 御婚儀御大礼  
御道具送・御入輿御式・御土産 1冊  
東京事務所 1915年(大正4)2-3月

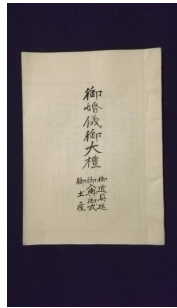
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



5. 大札御式伝習願 小野寺文哉→小笠原清明  
1914年（大正3）11月吉日

大名家の息女を迎えるにあたって、婚礼は武家の作法によって挙行されることとなり、市島家は小笠原流29世宗家・小笠原清明（1877-1952）に挙式全般の礼法についての指南を依頼、小笠原家からは清明の代理として弟子の岩間正貞が派遣されることとなった。これを受け、市島邸職員理事であり、東京事務所で今回の婚礼全般の指揮を執っていた小野寺文哉以下数名が、床の間の飾りや膳、酒肴の用意等について、直接指南を受けるべく、あらためて依頼したもの。



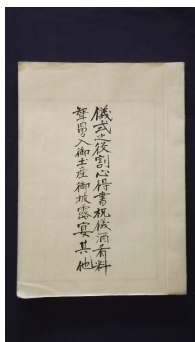
6. 御婚儀御大札 御道具送・御入輿御式・御土産 1冊  
東京事務所 1915年（大正4）2-3月

婚礼とその前後の重要事項について一冊にまとめたもの。末尾に「東京事務所」とあることから、市島邸東京事務所が一括して準備したもので、後表紙の紙継目にある「小野寺」の印から市島邸東京事務所の担当で、この婚礼を「御慶事係筆頭」として取り仕切っていた小野寺文哉が最終的にまとめたものだとわかる。表紙にあるように全体が三部構成となっている。



7. 協議事項覚書 1冊  
東京事務所 1915年（大正4）

婚礼に関する諸行事について、事前に検討すべき内容を網羅したもの。御道具送（嫁入道具搬送）の日程と道順、担当者の配置にはじまり、輿入当日の順路、事務担当者（御式係）の服装、出迎えの手順、各種土産の内容や水引のかけ方、披露宴の日時・会場、招待状文案に至るまで、詳細に計画されている。



8. 儀式之役割心得書祝儀酒肴料賀罵入御土産御披露宴其他 1冊  
東京事務所 1915年（大正4）頃

婚姻にかかわる準備作業に関する書類の控。結婚式を小笠原流でおこなうにあたっての許可願（「大札御式伝習願」）にはじまり、「御慶事御式順序及其役割」（大正四年三月吉日 御慶事係筆頭）には輿入当日の手順をそれぞれの担当者（市島家・松平家）氏名とともに詳細に記してある。特に女中たちについては個別に「御式当日心得」として担当業務が決められており、輿入当日の関係者への祝儀、心付の金額、花婿がはじめて花嫁の生家を訪問する「賀入」の際の土産の総計などもあって興味深い。また、3月20日に実施された東京柳橋の柳光亭での披露宴の席順も載せられており、当日の参加者がわかる。

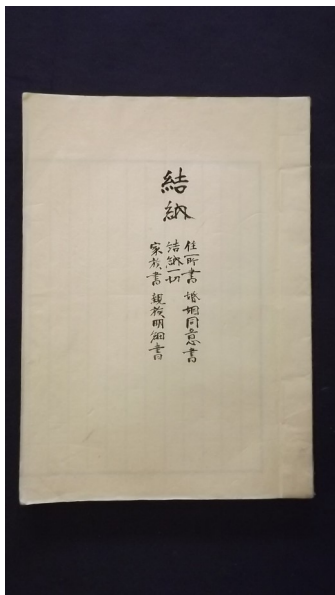
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

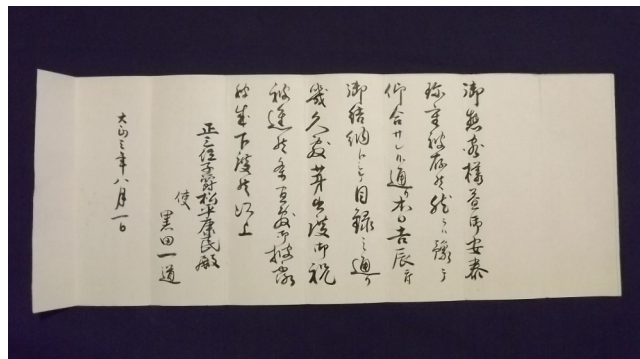
### ■ 結納

本来、婿方から嫁方への結婚の申し入れである「結納」は、武家社会となった鎌倉時代以降、それまでの婿取り婚から嫁入り婚への変化した後に始まったと言われています。吉日を選び、婿方の使者が嫁方を訪問し、口上とともに数々の物品が贈られ、両家の間で親類書(家族書)が取り交わされます。

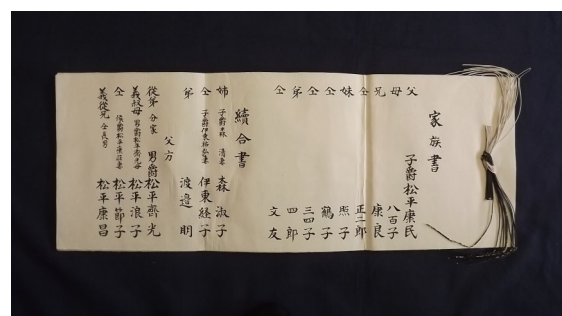
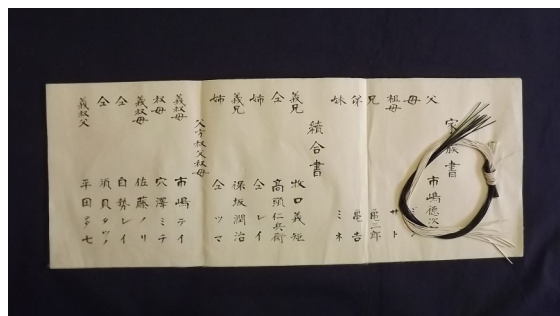
市島・松平両家の結納は1914年(大正3)8月1日に行われ、婿方、嫁方双方の使者が結納の品を取り交わしました。



1. 結納 住所書・婚姻同意書・  
結納一切・家族書・親族明細書



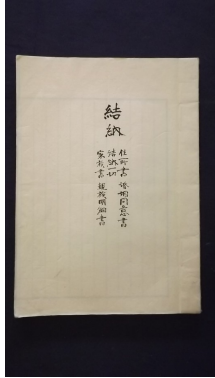
2. 結納口上書



3. 市島家・松平家親類書

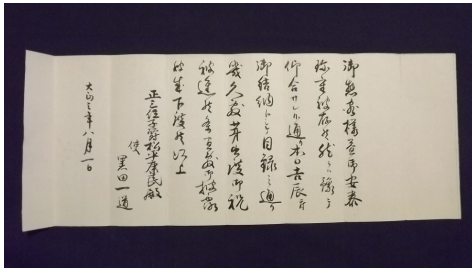
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



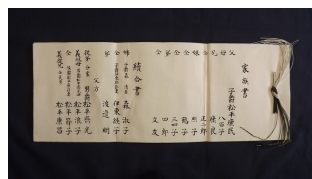
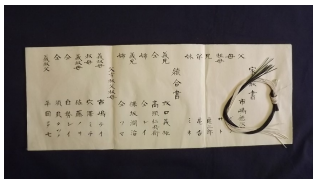
1. 結納 住所書・婚姻同意書・結納一切・家族書・親族明細書  
東京事務所 1914年（大正3）8月

結納にあたり作成される書式について、市島家が作成した控をまとめたもの。冒頭の「住所書」は結納に先立つ1914年（大正3）7月に「隆子様御懇請ノ為ニ松平家へ参邸ノ後、同家ヨリノ御所望ニヨリ差出シ」たものだという。他に結納の際の市島家使者口上の手控、持参した進物の目録、結納当日のスケジュールと松平家までの道順、両家の親類書に加え、使用人書（使用人の一覧表。松平家分は家来書となっている）などが収められている。



2. 結納口上書 黒田一道（松平康民使）  
1914年（大正3）8月1日

結納の品は、婿方、嫁方それぞれの使者が口上を添えて相手方に差出した。これは嫁方の使者からの口上書。黒田一道は松平家の家扶（華族の家政機関職員）で、この婚礼における松平家側実務担当者の筆頭であった。



3. 市島家・松平家親類書 1914年（大正3）8月

両家の親族一切を書き上げたもの。結納にあたり必ず取り交わすものであり、どこまで記録するかは両家の間で調整して作成された。一見すると黒白のような水引だが、実際には紅を用いた「紅水引」と呼ばれるもので、本来は宮中の吉事に用いられたもの。

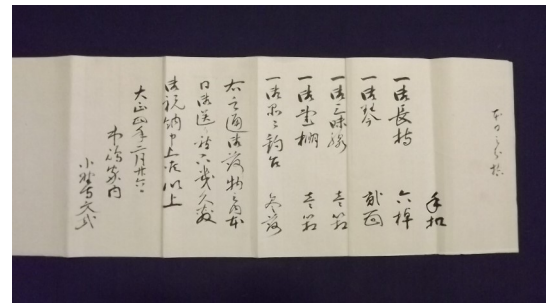
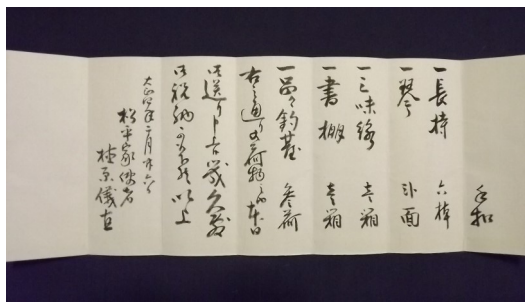
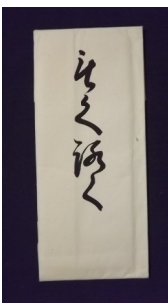
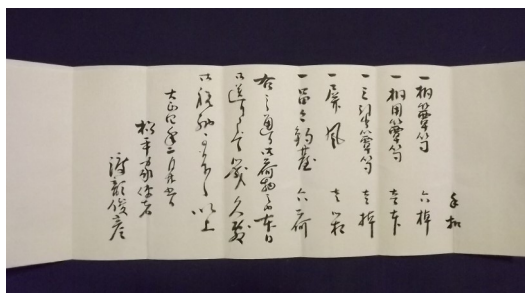


# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

### ■御道具送

輿入れが近づくと、花嫁の荷物(嫁入道具＝御道具)が婿の家に届けられます。隆子の道具類は婚礼の前月、2月25、26日の2日にわけて市島家に運ばれました。大きなもの(琴や屏風)は個別に箱に入れて、小さなものは箆笥に入れたり、釣台に乗せて運んだことが、搬送当日の「もくろく」からわかります。事前の準備段階で、当日のルート、雨天中止となった場合の予備日の設定、さらには荷物を運んだ使者への祝儀、饗応の内容にいたるまで綿密な打ちあわせをおこない決められていました。

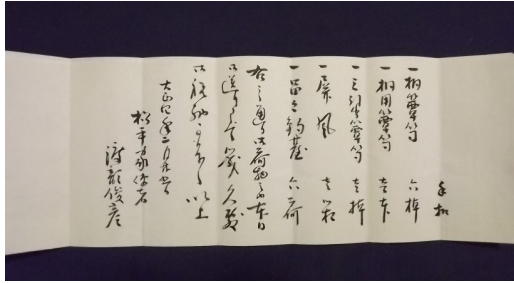


諸道具目録および「御荷物送手控」

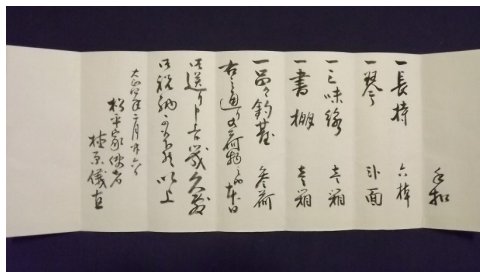
1915年（大正4）2月25、26日

# 2017年度第1回 市島邸企画展示

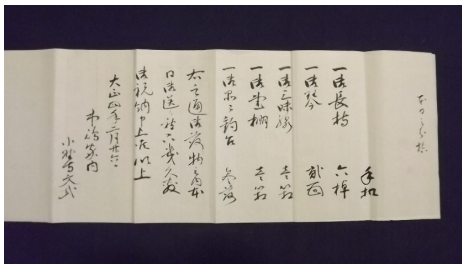
## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



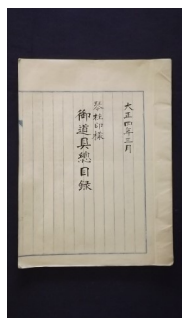
1 2. もくろく 松平家使者 渡部俊彦  
1915年（大正4）2月25日



1 1. もくろく 松平家使者 植原儀直  
1915年（大正4）2月26日



1 3. 御荷物送手控 市島家内 小野寺文哉  
東京事務所 1915年（大正4）2月26日



1 0. 琴柱印様御道具総目録 1冊  
東京事務所 1915年（大正4）3

隆子の「嫁入道具」は輿入れの前月である2月の25、26両日、東京の本郷区龍岡町（現・文京区湯島）の松平家から下谷区金杉（現・台東区金杉）の市島家に搬入（御道具送）された。これはその目録で、嫁入道具一点ずつのものではなく、箆笥、長持など、いわば「箱単位」のリストである。25日には桐箆笥6棹、桐用箆笥1本、三引出箆笥1棹、屏風1箱、品々釣台6荷、26日分には長持6棹、琴2面、三味線1箱、書棚1箱、品々釣台3荷とあるが、桐箆笥や松平家の三つ葉葵の紋が描かれた長持の中には、大名家の姫君の嫁入にふさわしい、豪華な品々が収められていた。それぞれ松平家の家従である渡部俊彦、植原儀直が使者として随行、市島家側は「御慶事係筆頭」小野寺文哉が対応した。

隆子が輿入れの際に持参した物品の総目録。幕末津山藩の刀工の多田正利の銘を持つ守刀にはじまり、蒔絵の硯箱、花入、茶道具、雛道具、家紋入の膳椀などの諸道具、さらには髪飾、指輪、時計、衣類（綿入、袴、単衣、羽織、帯）、夜具、はては人力車まで、300項目近くの品々が運び込まれたことが分かる。「琴柱印」は、松平家の家紋（葵紋）とは別のいわゆる「女紋」として隆子が用いた紋である。

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

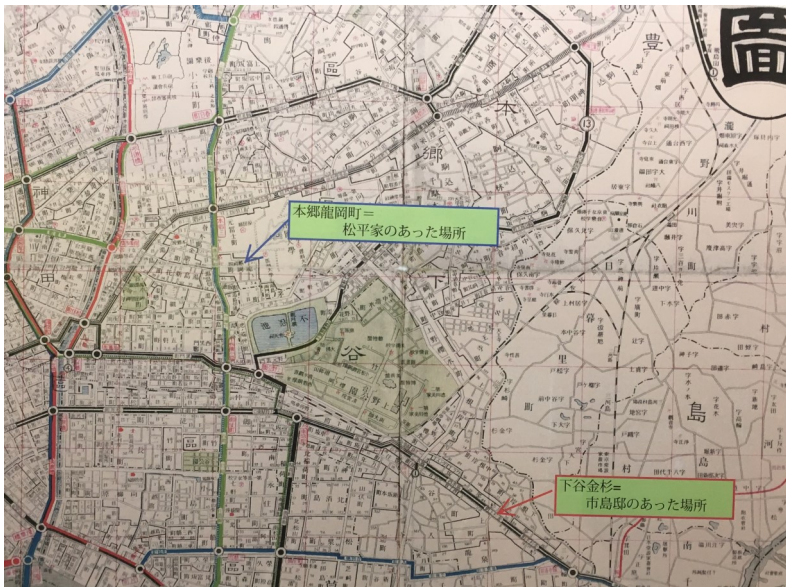
### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

#### ■待ちに待った婚礼、そして華やかな披露宴

当初3月7日に予定されていた婚礼が初之丞の体調不良で延期、両家の間で日程調整がなされ3月16日と決定します。

婚礼当日、本郷龍岡町の住み慣れた自宅を出た隆子は、馬車で下谷金杉の市島家東京別邸に向かいます。直線距離にして約2.5km、時間にすればおそらく1時間ほどの道のりを、一体どんな思いで過ごしていたのでしょうか。

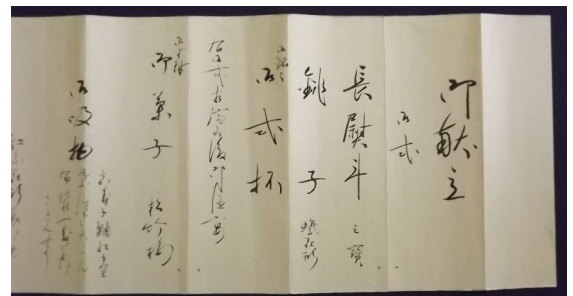
そして、披露宴は同月20日に東京柳橋の柳光亭を会場にして開催されました。柳光亭は島崎藤村が1913年(大正2)にフランスへ渡る際の送別会にも使われた当時の人気店です。披露宴の献立をみると、鯛の浜焼、自然薯の黄身焼、ヒラメの刺身等からはじまり、本膳、二の膳、焼き物、御菓子と豪華な料理が並んでいます。こうした献立は2月中に柳光亭と調整を進めていたようです。



39. 早わかり番地入 東京市全図 (部分・個人蔵)



16. 金銀扇面「松平家市島家 御結婚御披露宴」2面

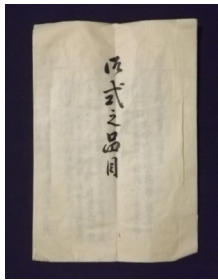


15. 御献立 1巻 柳光亭清兵衛→市嶋様  
1915年(大正4)2月



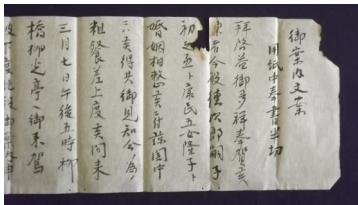
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



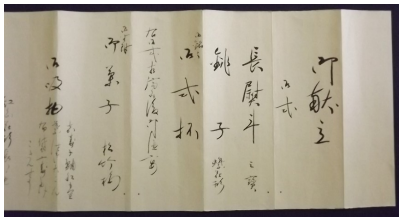
9. 御式之品目 1冊  
東京事務所 1913年（大正3）12月

婚礼の際に使用した物品の一覧。式次第に応じて使用される三方、膳、酒器等、30項目以上の品々が並んでいる。



14. 市島家・松平家結婚披露宴招待状文案 1巻  
松平康民・市島徳次郎→何某 1915年（大正4）3月5日

3月7日開催予定だった披露宴への招待状文案。「協議事項覚書」に記載されている文案の現物である。実際に披露宴が開催されたのは同月20日だが、これらの資料から当初3月7日に予定されていたことがわかる。



15. 御献立 1巻 柳光亭清兵衛→市嶋様  
1915年（大正4）2月

3月20日におこなわれた披露宴の献立案。市島家の挙式準備資料にも同じ内容で記されているので、この原案通り実施されたものとも思われる。



16. 金銀扇面「松平家市島家 御結婚御披露宴」2面  
1915年（大正4）3月20日

表を金地に折鶴、裏面を銀地に亀甲紋とした扇面に、披露宴当日の献立を記したもの。当日参加者それぞれの席、もしくは花嫁、花婿の席に用意されたものか。いずれにしても、その日限りの献立をこうした形としたところにも、披露宴を主催した市島家のこの婚礼にかける思いが伝わってくる。



17. 御料理献立 御式当日・御披露宴当日 1冊  
東京事務所

挙式当日と柳光亭での披露宴の献立を記したもの。挙式当日、新郎新婦の前には御鱈、御汁、焼物は尺鯛の塩焼、等々、1人前20円相当の料理が用意されたが、実際に手をつけられたものかどうか。一方、招待客に振る舞われた料理は一汁五菜の本膳を中心に、1人前9円の料理だった。

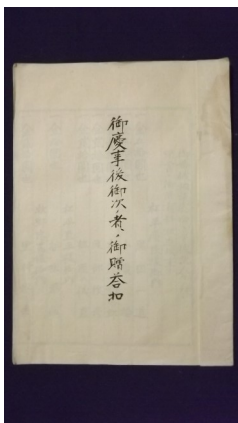
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

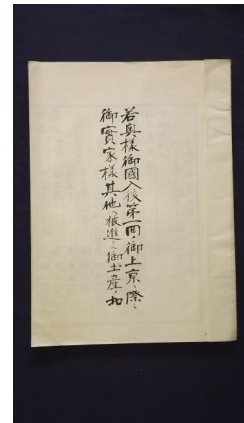
### ■ご祝儀とそのお返し

婚礼となれば御祝儀はつきもの。今日の結婚式のご祝儀といえば「現金」ですが、当時はそうでもなかったようです。今日残された御祝儀の一覧表には、誰が、何を贈ってくれたか、さらにそれがいくらかのものか、見積価を添えて詳細に記されています。市島家では御祝いに対し、見積価を踏まえてお返しの品を決定したようです。

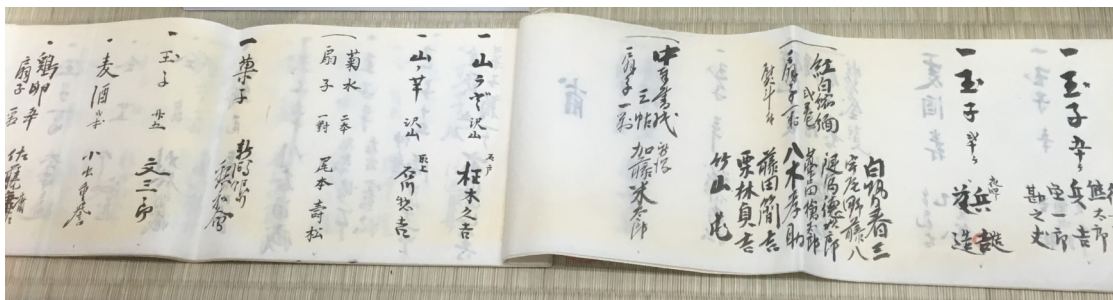
市島家の分家である角市家当主にして早稲田大学図書館長であった市島謙吉(春城)は1914年(大正3)8月1日の結納の日に白羽二重1疋と末広1箱を、後日これに加えて縮緬1反を贈っています。市島宗家では羽二重と末広を40円、縮緬を18～19円相当と見積もり、紅白餅1箱をお返しとしています。



2 1. 御慶事後御次ノ者ノ御贈答控 1冊  
御慶事係筆頭(小野寺 文哉) 1915年(大正4)



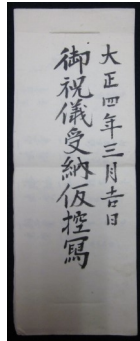
2 3. 若奥様御国入後第一回ノ御上京二際シ御実家様其他へ  
被進タル御土産ノ控 1冊 1915年(大正4)頃



1 9. 御祝儀受納帳 1冊

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



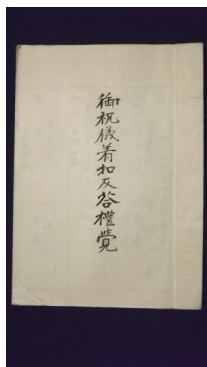
18. 御祝儀受納仮控写 1冊  
1915年（大正4）3月吉日

婚礼の際の祝儀について氏名、品名、見積価を記し、返礼品を朱書で追記したもの。



19. 御祝儀受納仮帳 1冊

祝儀の一覧表だが、収載された人名、地名を見ると、市島徹太郎（分家・枅市当主）、市島万亀太（分家・入市当主）さらには浄念寺（市島家の菩提寺）、新潟銀行、真島桂次郎、白勢和一郎など、新潟の人々や団体からのものが多く、あるいは東京の別邸ではなく、新潟の本邸に寄せられた祝儀をまとめたものか。玉子10個、ビール2本など、持参した人々それぞれが、自分にできる精いっぱいのお気持ちを込めていることが伝わってくる内容となっている。



20. 御祝儀着控及答礼覚 1冊  
東京事務所 1915年（大正4）

婚礼にあたって諸氏から寄せられた祝儀の一覧。品名と氏名、さらに市島家が想定した見積価が記され、そこに朱で返礼品が追記されている。見積価の根拠は記されていないが、当時の実勢価格を踏まえた金額かとも思われる。

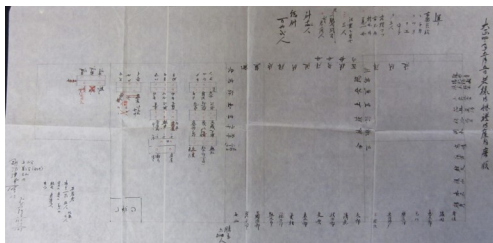
# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



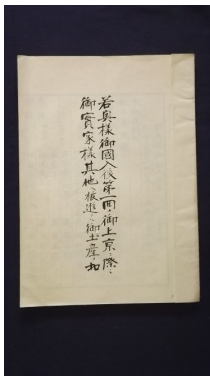
2 1. 御慶事後御次ノ者ノ御贈答控 1冊  
御慶事係筆頭(小野寺文哉) 1915年(大正4)

婚礼にかかわるさまざまな行事に際し実務を担当した人々に対し、市島、松平両家からおくられた慰労の金品をまとめたもの。冒頭には「御婚儀相済慰労トシテ後記人々ニ対シ頭書ノ御酒肴料被進候事」として市島家から松平家の従者に対しておくれた慰労金の一覧が示され、それに続いて松平家から市島家側の実務責任者(御慶事係筆頭)であった小野寺文哉への慰労の品々、新潟本邸での披露の際、松平家の使者を応接した人々に対し、松平家から贈られた物品一覧が記されている。



2 2. 大正四年五月五日若様御婚礼御広目席順  
1915年(大正4)5月

東京での挙式を終え「御国入」した新郎新婦を迎えて御披露目の宴席が新潟で開かれた際の席次表。出入の業者などもふくめた大宴会で、総計122名が記されている。なお新潟の本邸での結婚披露は、主だった人々に対してはこれとは別に4月30日に済ませている。



2 3. 若奥様御国入後第一回ノ御上京二際シ御実家様其他へ  
被進タル御土産ノ控 1冊 1915年(大正4)頃

初之丞(徳厚)の元に輿入れし、その後新潟に「御国入」した隆子が、初めての東京の実家に里帰りした際、実家や関係の人々の元へ送った土産の一覧表。隆子の父、松平康民には越後名物「梨の実羊羹(10本入1箱、1円50銭)」その他、康民の妻八百子には越後の「絹丈夫(1反)」が贈られている。他にも隆子の姉たちの嫁ぎ先や母の兄ら、いずれも爵位を持った人々に交じって、のちに市島塾顧問となる社会学者、建部遯吾の名も見え、「梨の実羊羹(1箱)」ほか贈られている。



# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」

### ■婚礼や日々の生活に用いた諸道具類

婚礼に先だち、松平家からは大量の「嫁入道具」が市島家に運び込まれました。そうした道具類の多くには松平家の家紋である「三つ葉葵」が描かれていました。市島家までの道中、それらの道具は葵の紋が大きく描かれた長持に収められて運ばれたのです。記録では運び込まれた長持は6棹あったようですが、現在市島邸には葵紋の長持4棹が残っています。

迎える市島家の道具類も負けてはいません。こうした道具類からも、当時の結婚が家と家の間で結ばれたものだということが伝わってきます。



25. 四君子蒔絵膳椀



30. 惣黒長手葵御紋付御広蓋 2枚



27. 黒漆木瓜紋膳椀 (市島家)  
黒漆葵紋膳椀 (松平家)



33. 春慶塗葵御紋付御長持



32. 風竹蘭図金象嵌花入 1点 中川 一的 作

37. 天龍足付八足紫檀中卓 1台



36. 蒔絵都鳥吸物盆 全14枚のうち

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



25. 四君子蒔絵膳椀

本膳料理（本格的な供応料理）にも使用される膳椀のセットで、正面左手前から反時計回りに、飯椀、汁椀、平皿、坪皿。四君子とは、蘭・菊・梅・竹の4種を指し、画題としてもしばしば取り上げられた。漆黒の地に金で鮮やかに四君子を描いた膳椀20人分が、仁義礼智4つの箱に収められて松平家から運ばれた。



26. 四君子蒔絵飯次・湯桶・杓子・脇引盆・脇取盆・丸盆

四君子膳椀の「附属品」として、同様のケンドン箱に収められて松平家から市島家にもたらされた。こうした食器類は、婚礼の場だけではなく、市島家の華やかな催しの際に使用されたらしい。



27. 黒漆木瓜紋膳椀（市島家）・黒漆葵紋膳椀（松平家）

両家の家紋を全面に配し、内と外を黒朱の漆で鮮やかに塗り分けている。松平家から運び込まれた道具類の中に「惣黒御双方御定紋付御本膳 御夫婦前 一揃」があり、婚礼にあたり嫁方である松平家が、両家の家紋が入った膳椀を準備したことがわかる。



28. 黒漆木瓜紋隅切膳（市島家）・黒漆葵紋隅切膳（松平家）

1915年（大正4）3月、東京で式を挙げ、その後新潟に「お国入り」した初之丞と隆子のお披露目の宴席が4月30日に市島邸で催された。両家の家紋を配した膳椀は、そうした家を挙げての宴席を象徴するものといえよう。

## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



29. 黒漆葵紋杓文字・朱塗葵紋丸盆

「本膳附属 三次」と墨書されたケンドン箱に収められており、「御道具総目録」には「葵御紋付御三次 壺揃」とある。これはそのうちの杓文字と丸盆。隆子の輿入れにあたり、様々な道具類が市島家に運び込まれたが、その多くに実家である松平家を象徴する葵紋が描かれている。こうした道具類のすべてが残っているわけではないが、ただ現存するものの状態は良好で、100年の時を経てなお鮮やかさを失っていない。



30. 惣黒長手葵御紋付御広蓋 2枚

標題の名称で「御道具総目録」に記載がある。結納や婚礼の際の着物を乗せておくのに使われたもの。広蓋は本来衣装箱の蓋を指すが、後にはそれを似せて作った大型の盆のことをいうようになった。



31. 惣黒葵御紋散九寸御重箱 1組

標題は「御道具物目録」による。全体に葵紋を散らした豪華な重箱である。以前は湖月閣に展示されていたが、1995年（平成7年）の新潟県北部地震により湖月閣が倒壊した際に被災し損傷してしまったことが悔やまれる逸品である。



32. 風竹蘭図金象嵌花入 1点 中川 一的 作

中川一的是、津山藩松平家の金工・中川勝継の子として生まれた。兄・勝実が京の金工・後藤一乗に弟子入りし、その後江戸で活動するようになったため一的是が家を継いだという。幕末から明治にかけて活動したが、「御道具総目録」には「花入 中川一的是作 壺箱」とあり、本作品が隆子の「嫁入道具」の一つであったことがわかる。



33. 春慶塗葵御紋付御長持 1棹

標題は「御道具総目録」による。本来6棹あったもののうち、今日残るのは4棹である。「御道具送」の記載から、隆子の嫁入道具の長持6棹は、そのすべてが搬送2日目の2月26日に龍岡町の松平家から金杉市島邸に運ばれた。明治維新から50年、激動の日々の中で人々にとって徳川の世は昔日のものとなっていたが、それでもやはり三つ葉葵の紋所は、注目の的となったことだろう。



## 2017年度第1回 市島邸企画展示

### 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



37. 天龍足付八足紫檀中卓 1台

標題は「御道具総目録」による。他の嫁入道具のような華やかさに欠けるようにも見えるが、天板を8本の足で支える凝った造形であり、深みのある紫檀の輝きとともに、実に贅沢な造りとなっている。目録では香炉や花入などと並んで記されており、そうした品々を置いて使用したものか。



38. 琴柱印付一閑張行李

隆子が三つ葉葵の定紋とは別に用いた「琴柱印」が付された一閑張の行李。「御道具総目録」に「行李 弐個」とあるもののうちのの一つか。隆子が琴柱印を使用したことは記録からも明らかだが、実際にその紋を記した物品は少ない。なお一閑張は、張り重ねた紙を型抜きしたものや、器・机などの素地に直接紙を張ったものの上から漆を塗って仕上げる技法で、江戸前期の漆工・飛来一閑（1578～1657）の名に由来する。



34. 木瓜紋付姿見 1枚

前面四方だけでなく、背面にも大きく市島の紋が描かれている。「明治三十五年四月」と書かれた箱に入っているが、その頃に作られたとすれば、8代徳次郎（湖月）のもと、近代的な大地主へと成長した時代であり、その時から初之丞（徳厚）の時代となって戦後の混乱期に衰退してゆくまで、市島家の人々の喜びや悲しみ、さまざまな姿を映しだしてきたことだろう。



35. 永楽焼赤絵食器類

「永楽錦出茶碗」等と書かれた箱に収められており、市島家に伝わったもの。永楽焼は京焼の一種で、幕末から明治にかけて永楽保全、和全親子の名工を中心に、赤絵、金欄手の鮮やかな作品を世に送り出している。



36. 蒔絵都鳥吸物盆 全14枚のうち

鮮やかな金蒔絵と一部螺鈿で都鳥を描いた角盆。14枚現存していることから、市島邸で催される多くの人が集まるさまざまな慶事に使用されたものと思われる。

# 2017年度第1回 市島邸企画展示

## 「お姫様がやって来た！～豪農と華族の結婚式～」



市島初之丞（徳厚）

○市島初之丞（徳厚 1893～1959）

市島宗家第9代。父である8代徳次郎（湖月・1847-1917）と母・鈴木イネの間に生まれ、慶應義塾大学に学んだ。兄たちが早世していたため、1917年（大正6）父の死去に伴い家督を相続することとなった。徳厚と改名したのはその頃であり、それまでは初之丞と称した。

市島信編「面影」より



松平隆子

○松平隆子（1893～1953）

子爵・松平康民の息女で、生母はサワ（森川氏）。東京女子高等師範学校附属高等女学校（現・お茶の水女子大学附属高等学校）専攻科に学び、刺繍や琴に才を発揮した。結婚後は縁戚の女性たちの中心となって、女性の教養向上をめざす講演会を開催するなど積極的に活動していたが、1922年（大正11）ころから体調をくずし、その後は金杉や鶴見、金沢八景の別邸で過ごすことが多かった。

市島信編「面影」より



市島徳次郎（湖月）

○市島徳次郎（湖月 1847～1917）

31歳で家督を継ぎ、近世の豪農を近代的な千町歩地主へと転換、成長させた。1890年、国会開設に伴い、多額納税者として貴族院議員となり、また第四銀行で要職をつとめるなど、新潟の政財界で重要な役割を果たした。一方で写真や建築など多方面に興味を持ち、「湖月閣」（1995年の新潟県北部地震で倒壊）の設計、建築に携わったことでも知られる。妻は水原の佐藤伊左衛門の息女・順（ジュン 1854～1943）

市島信編「面影」より

○松平康民（蘭溪 1861～1921）

津山藩主・松平齐民（確堂、1814～1891）の四男として江戸に生まれる。1878年兄・康倫の死去ののち家督を相続、1884年子爵に叙せられ、1890年の国会開設とともに貴族院議員となる。妻・八百子は松江藩主・松平定安の息女。

今から約100年前の大正4年3月20日、東京柳橋の柳光亭で盛大な結婚披露宴が開かれました。主役は市島宗家の継嗣・初之丞(徳厚)、子爵・松平康民の息女・隆子。

千町歩地主として確固たる地位を築いた市島家と大名のお姫さまの婚礼の様子と暮らしぶりを、市島邸が所蔵する資料を通じてお伝えします。

平成**29**年**6**月**10**日(土)～**7**月**31**日(月)

会場 市島邸 (新発田市天王1563)

入館料 大人600円/小中学生300円

開館時間 午前9時から午後5時

休館日 毎週水曜日(祝日の場合は翌日休館)

### ■ギャラリートーク

平成29年6月10日(土) 午前の部 午前10時～

午後の部 午後2時～

講師 藤原 秀之 氏(早稲田大学戸山図書館担当課長)

入場料 無料(6月10日のみ入場料が無料となります)

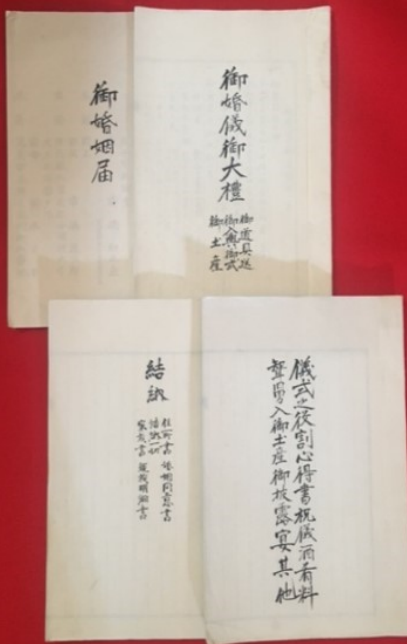
定員 各回とも20人(先着)

申込 新発田市観光振興課 ☎0254-28-9960

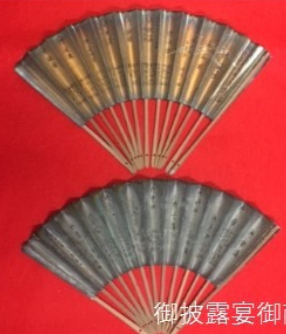
企画展  
市島邸

〜豪農と華族の結婚式〜

# お姫様が やっけて来た!!



黒漆葵紋膳椀(松平家)



御披露宴御献立

主催/新発田市 協力/早稲田大学図書館  
お問い合わせ/新発田市観光振興課 ☎0254-28-9960